

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 小児看護学方法論 | 2年・前期 | 2単位 30時間 | 准教授 柴崎由佳 |
| 科目カテゴリー | 看護提供のあり方 | 科目ナンバリング | 33310802 |

1. 授業のねらい・概要

学生が、健康を障害されることが、子どもと家族に与える影響や、子どもの状況や環境が子どもと家族に与える影響について学び、子どもと家族に必要な看護を理解することを目的とする。また、子どもにおける疾病の経過の特徴と看護について理解し、さらに、健康問題を抱えた子どもの看護を展開するための知識と方法を身につけることを目的とする。

2. 学修の到達目標

1. 健康を障害されることが、子どもと家族にとってどのような体験か説明できる。(D-2)
2. 子どもと家族との援助関係について述べるができる。(D-2)
3. 子どもの発達段階に応じた環境調整の注意点を述べるができる。(D-2)
4. 子どもの発達段階を考慮したアセスメントを説明できる。(D-2)
5. 子どもの発達段階を考慮した看護技術の方法と注意点を述べるができる。(D-2)
6. 検査・処置を受ける子どもと家族の援助について述べるができる。(D-2)
7. 健康障害を持つ子どもにとっての遊びの意味と必要性を述べるができる。(D-2)
8. プレパレーションの必要性を説明できる。(D-2)
9. 子どもの発達段階に合わせた実施方法と注意点を述べるができる。(D-2)

3. 授業の進め方

テキストに基づくパワーポイント資料を用いた講義と、個人ワークおよびグループワークを併用した演習を中心に進める。また、視聴覚教材も取り入れ、学生が主体的に学習を進められるように努める。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、調査学習、双方向アンケート、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ、リフレクション、レポートを用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：Classroom等による学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等。

4. 授業計画（講義・演習）

| 回 | 授業内容 | 授業形態 | 事前事後学修（学修課題） | 担当 |
|---|-------------------------|------|--|------|
| 1 | 健康障害、通院や入院が必要な子どもと家族の看護 | 講義 | 予習：健康障害、入院、外来における子どもと家族の看護部分を読む。 復習：授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎由佳 |
| 2 | 援助関係を形成する技術 | 講義 | 予習：援助関係を形成する技術部分を読む。 復習：授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 3 | 安心・安全な環境を調整する技術 | 講義 | 予習：環境調整技術、安全・安楽を確保する技術部分を読む。 復習：授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |

| | | | | |
|----|--|----------|--|----|
| 4 | 食事援助, 排泄援助, 清潔・衣生活援助 | 講義 | 予習: 食事・排泄・清潔・衣生活援助部分を読む。 復習: 授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 5 | 身体のアセスメント① 一般状態, 胸部・呼吸器, 心臓・血管, 腹部, 骨格・筋・運動機能 | 講義 | 予習: 子どもの形態的・機能的発達部分を読む。 復習: 授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 6 | 身体のアセスメント② 神経系・鼠径・生殖器, 皮膚・爪, 頭頸部, 眼, 耳 | 講義 | 予習: 子どもの形態的・機能的発達部分を読む。 復習: 授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 7 | 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 症状・生体機能の管理技術 | 講義 | 予習: 検査や処置を受ける子どもと家族への看護, 症状・生体機能の管理技術, 部分を読む。 復習: 授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 8 | 呼吸・循環を整える技術, 与薬技術 | 講義 | 予習: 呼吸・循環を整える技術, 与薬技術部分を読む。 復習: 授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 9 | 救急救命の技術 | 講義 | 予習: 救急救命の技術部分を読む 復習: 授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 10 | 小児看護技術演習① 排泄, 清潔, 与薬, バイタルサイン, 身体計測 | 演習 | 予習: 演習する技術の内容・実施方法を確認する。 復習: 演習で学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 11 | 小児看護技術演習② 安全・安楽, 事故防止, 輸液 | 演習 | 予習: 演習する技術の内容・実施方法を確認する。 復習: 演習で学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 12 | プレパレーション演習① 計画・準備 | 講義 演習 | 予習: 健康障害を持つ子ども・家族への看護部分を読む。 復習: 授業資料を読み返し学習した内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 13 | プレパレーション演習② 準備・発表練習 | 演習 | 予習: プレパレーションツール作成の準備をする。 復習: 演習内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 14 | プレパレーション演習③ 発表 | 演習 | 予習: プレパレーション発表準備をする。 復習: 発表内容を振り返る。 | 柴崎 |
| 15 | プレパレーション演習④ 発表 | 演習 | 予習: プレパレーション発表準備をする。 復習: 発表内容を振り返る。 | 柴崎 |

5. 成績評価の方法・基準

定期試験(受験資格は2/3以上出席した者)70%, 課題30%, 総合的に評価する。但し, どちらか一方でも合格基準(60%)に満たない場合は単位認定できない。期限までに提出されない課題・レポートがあった場合, 単位認定できないことがある。課題・レポートの内容・配点・提出方法・提出先等は授業内で指示する。

成績評価は, 「2. 学修の到達目標」に示した評価観点毎に, ルーブリック評価(到達はA評価)とする。尚, ルーブリック評価表に関する詳細は, 第1回講義内で別途説明する。

定期試験の出題方法等は, 事前に口頭で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト: 1) 中野綾美編(2025) ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版

- 2) 中野綾美編 (2025) ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版

参考文献：1) 中村友彦他編 (2022) ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版

- 2) 奈良間美保他著 (2025) 系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院

- 3) 奈良間美保他著 (2025) 系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準ずる程度の具体的学習内容

シラバスの授業計画の範囲および，事前事後学修（学修課題）について最低 90 分の予習及び授業内容について最低 90 分以上の学習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

小児看護学概論の学習内容と関連させ主体的に参加することを期待する。

グループワークは主体的，意欲的かつ協働的に参加することが重要である。遅刻，欠席および授業中の私語，授業中に授業に関連する作業以外の行動は，参加態度として評価対象とするので注意すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題・レポートの講評は講義内で行う。内容に不備があるものは再提出を求める。

試験実施の際に傾向や解答を口頭で説明するか試験実施後解答を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。